

学年 2年 関連する主な教科 保健体育

安全な学校生活 (校内でのヒヤリ・ハット)

本時の目標 これまでの学校生活を振り返り、安全に学校生活を送るためにはどのような生活態度が望ましいか考えられるようにする。また、教室環境について考えることを通して、学校における生活上の諸問題を自ら解決しようとする意欲を育む。

単元の評価規準	集団活動や生活についての知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・実践	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
	健康で安全な学校生活を送ることの意義とそのため必要な生活態度、諸問題の解決法について理解し、そのために必要な行動の仕方を身に付けている。	学級の一員として、健康で安全な学校生活を送るためには、どのような生活態度が望ましいかを考え、多様な意見をもとに自ら意見決定して協働的に実践している。	他者と協働して自己の生活上の課題解決に向けて取り組み、自他の健康的で安全な生活を構築しようとしている。

事前・事後活動

事前・本時・事後	学習内容
事前	保健記録から、保健委員が本校の事故の特徴について実態把握を行う。
本時	生徒自身が経験したことについて振り返ることで、事故等の未然防止について、考えられるようにする。
事後	本時で学習したことをもとに、委員会を中心に、具体的な予防策について実践する。

展開例

過程	活動内容	教師の支援・指導上の留意点
活動の開始 (5分)	<ol style="list-style-type: none"> 本校におけるけがの事例と全国の中学校のけがの発生状況を知る。 「ハインリッヒの法則」について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 保健委員が本校の事故の特徴について説明する。 全国の事例から重大な事故が身近にあると感ぜられるようにする。 事故の防止については、「ヒヤリ・ハット」段階での対処が重要であることを理解できるようにする。
活動の展開 (35分)	<p style="text-align: center;">目標 安全に学校生活を送るための方法を考えよう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 学校内 (校地内) で生徒自身が経験した「ヒヤリ・ハット」について書き出す。 「ヒヤリ・ハット」について書いた場所にシールを貼る。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時のねらいと概要について説明する。 「いつ」「どこで」「どんな状況で」起きたかを具体的に書くようにする。些細なことでも書くよう促す。 黒板に貼った校舎図にシールを貼り、「ヒヤリ・ハット」注意箇所を「見える化」する。(写真1)

過程	活動内容	教師の支援・指導上の留意点
	5 シールの貼ってある場所を参考に学校内で事故のおそれのある場所と内容について付箋に書く。	・班ごとに、付箋に記入する。(写真2)
	6 書いた付箋を校舎図に貼る。 7 「ヒヤリ・ハット」注意箇所における事故の予防策を班で考え付箋に書いて、校舎図に貼る。	<ul style="list-style-type: none"> 校舎図に貼る。(写真2) 予防策の思い浮かびそうなところから考えさせる。 ◎意欲的に事故を未然に防ぐ手立てを考えている。 【関心・意欲・態度】
活動のまとめ (10分)	8 班ごとに注意箇所と予防策についての意見を発表する。(写真3) 9 振り返る	・多様な考えに気付くことができるよう促す。

活動の様子



▲「ヒヤリ・ハット」注意箇所の「見える化」(写真1)



▲学校内で事故のおそれのある場所と内容について付箋に書き、校舎図に貼る(写真2)



▲注意箇所と予防策についての意見の発表(写真3)

使用教材・準備物、留意事項など

独立行政法人日本スポーツ振興センター「学校管理下の死亡・障害事例と事故防止の留意点」

傷害の発生要因

本時の目標 傷害の発生要因には、人的要因と環境要因があり、傷害はそれらが相互に関わり合っていることを理解できるようにする。

▶ 本時の位置付け

傷害の防止（8時間扱い）のうちの本時が1時間目である。傷害の発生にはさまざまな要因が関係しているが、その多くは人的要因と環境要因が関係している。本時は、人的要因と環境要因の関わりの中で傷害が起こることを学ぶ時間である。傷害をより身近に感じるために、学校生活の事象やデータを活用した授業を展開する。そうすることでより自分ごととして捉えたり、考えたりさせる時間にすることができ、単元を通して人的要因・環境要因を意識することが可能となる。

▶ 単元の指導計画例

時	主な学習内容	
1 本時	傷害の発生要因	傷害の発生要因には、人的要因と環境要因があり、傷害はそれらが相互に関わり合っていることを理解する。
2	交通事故の発生要因	交通事故による障害は、人的要因、環境要因及び車両要因が関わり合っていることを理解する。
3	交通事故の危険予測と回避	交通事故による障害を防ぐには、危険を予測し、安全な行動、環境の改善などを行い、危険を回避することが必要であることを理解する。
4	犯罪被害の防止	犯罪被害には、人的要因と環境要因が関わっており、防止するためには、危険を予測し、安全な行動、環境の改善などを行い、危険を回避することが必要であることを理解する。
5	自然災害による危険	地震などの自然災害による傷害は、発生直後に起こる一次災害、続いて起こる二次災害によって生じることを理解する。
6	自然災害による傷害の防止	地震などの自然災害による傷害を防止するためには、災害に備えた安全対策や災害時の安全な行動が必要であることを理解する。
7	応急手当の意義と方法	傷害による出血や骨折などの際には、迅速かつ適切な手当が傷害の悪化を防止できることなどについて理解し、止血法や包帯法を行う。
8	心肺蘇生法	心肺停止に陥った人に遭遇したときの応急手当として心肺蘇生法があることとその方法について理解し、胸骨圧迫、AED使用などの心肺蘇生法を行う。

▶ 本時の展開例

過程(時間)	学習活動・内容	教師の支援・指導上の留意点 ◆発問 ●教師の行動 ◎手立て ◇生徒への個別支援
5分	1 生徒自身の経験や教科書資料（中学校でのけが）をもとに、中学校での怪我を想起する。	◆中学校で怪我をした経験はありますか。また怪我はしなかったがヒヤリハットした経験はありますか。 ・生徒の発言を板書にまとめる。 ◎傷害の有無や、重大さで板書位置の変更。（ハインリッヒの法則のようなピラミッド型）
なぜ、身の回りで傷害（けが）は起こるのだろうか。その原因について考えよう。		
15分	2 ヒヤリハットシステムで蓄積した本校のデータを分析し、自校で傷害が起こる原因についてグループで考える。 (1) 気付いたことを付箋を使ってベン図（※）に書き出す。 ※次ページ参照 (2) 書き出した付箋をベン図で3分する。 (3) 分けた2つのカテゴリーに名前をつける。	◆このデータは、本校で怪我をしたり、ヒヤリハットしたりした経験を生徒が記録したものです。 このデータから、本校生徒に傷害が起こる原因やその特徴を考えてみましょう。 ◎ベン図を用いることで視点を絞る。 ◎（1）の段階では、分けることは意識せず書き出すようにする。 ◇分析の視点が定まっていなかった場合は、3つの視点【いつ・どこで・どのように】を考えるよう声をかける。 ◎（2）3分ベン図のうち1つはその他としておき、2つに分ける意識を持つようにする。当てはまらないものは、一旦その他にしておく。 ◆その他以外の2つのカテゴリーに名前を付けてみてください。
15分	3 各グループのまとめを共有し、共通点を考え、まとめる。	◆各グループのベン図を見て、気付くことはありますか。 ・生徒の発言を板書にまとめる。ベン図を用い、人的要因・環境要因に書き分ける。
10分	4 傷害が起こるとき、起こらないときの違いについて考える。	◆どんなときに傷害は起こるのだろうか。 ・生徒の発言を板書（ベン図の中心）でまとめる。 傷害有り→（全てが重なる時）相互に関わり合う時 →頻度：少 傷害無し→（どちらか1つ）もしくは、相互の関係が弱い。 →頻度：多 最初のハインリッヒの法則に戻り、このピラミッドを完成させる。 300件の小さなヒヤリハットに気付く力こそ重要。
5分	5 学習の振り返りをする。	◆今日の学習を自分の学校生活と合わせて振り返ろう。

▶ 本時の評価

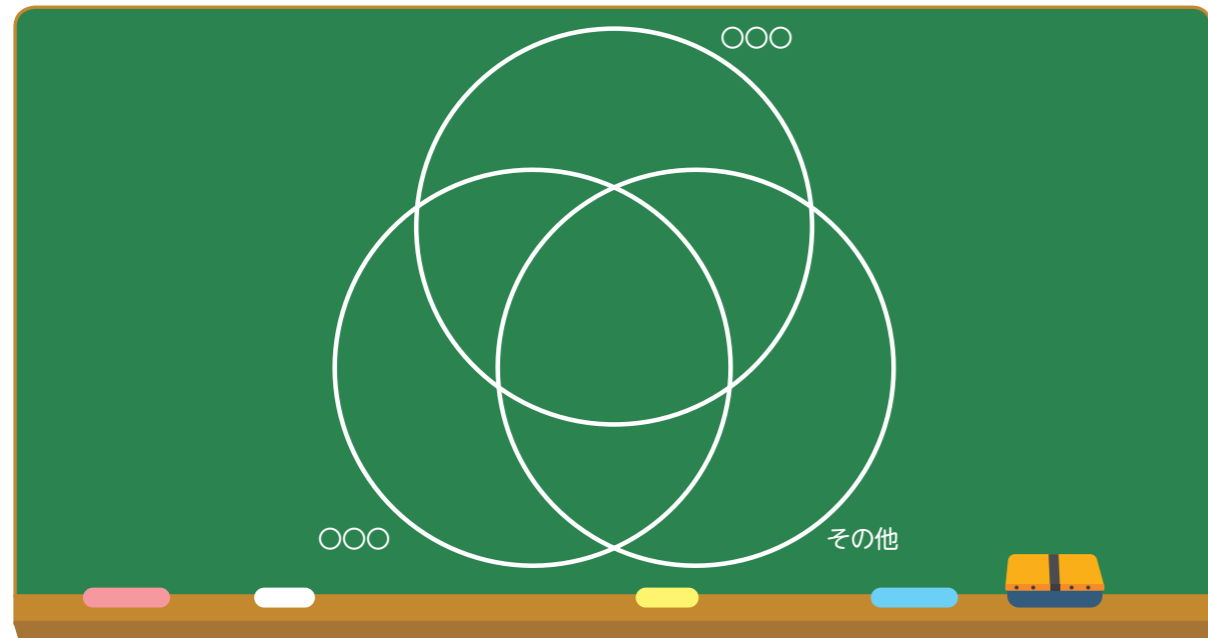
- ・ 傷害の発生要因には、人的要因と環境要因があり、傷害はそれらが相互に関わり合っていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。(知・技)
- ・ 自校のデータから、安全面の課題や原因を考え、見つけている。(思・判・表)
- ・ 本時の学習内容を自己の生活に結び付けて、より安全な生活を心がけようとしている。(態)

✓ 使用教材・準備物、留意事項など

教師：大型モニター、教員用タブレットまたは PC

生徒：ICT 端末 (1 人 1 台)、本授業では、生活支援アプリを使用する想定。

▶ 板書計画



※グループワークの際は、活動内容に応じて、上のようなベン図のほかに Y チャートを用いるなどしてもよい。

❓ 「ヒヤリハットシステム」とは

学校内での生徒がヒヤリハットした体験を、生徒目線で瞬時に記録し、蓄積していくことができるシステム (考案・開発：大阪教育大学教授・藤田大輔)

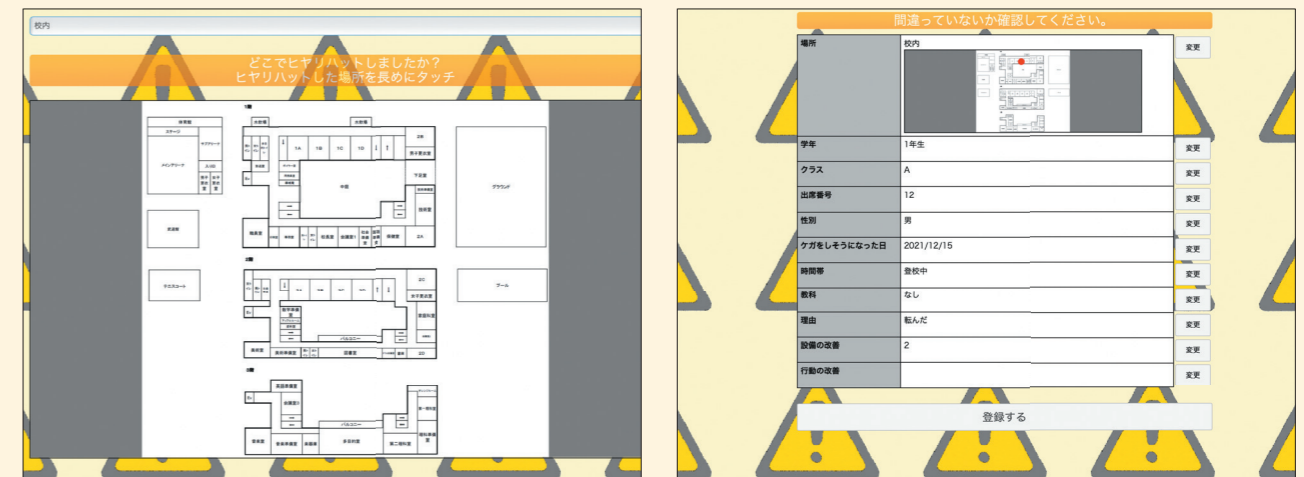
なぜヒヤリハット体験を記録するのか…

ハインリッヒの法則【1:29:300】のうち「300」に該当する体験は、傷害を生まないことが多いため、「あぶなかった〜」という個人的体験や感情に留まり、外に発信されにくいことが多い。傷害を未然に防ぐためには、これらを記録して可視化し、学校安全に生かすことが重要。

ポイント 生徒自身に記録させる

- ・ 生徒自身が記録することで、自然と学校安全の意識が高まる。
- ・ 危険箇所での行動を意識したり、普段の生活から危険箇所を探したり考えたりする行動が生まれる。

(1) 各自の端末からアプリを立ち上げ、校内地図に、危険箇所やその原因、改善策を記録していく。



(2) 記録したデータは校内マップで一覧にして見ることができる。

➡ 一見するだけで危険箇所が可視化される。



抽出データ 1 年生

全校生の打ち込んだデータ

交通事故によるけがの防止

単元の目標

- (1) 交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因と、交通事故などによる傷害の防止、自然災害による傷害の防止、応急手当の意義と実際について、理解できるようにするとともに心肺蘇生法などの技能を身に付けることができるようにする。
- (2) 傷害の防止に関わる事象や情報から課題を発見し、自他の危険の予測を基に、危険を回避する方法を考え、それらを伝え合うことができるようにする。
- (3) 傷害の防止について関心を持ち、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとすることができるようにする。

▶ 本時の展開例

本時の目標

- (1) 交通事故などによる傷害は、安全な行動、環境の改善によって防止できることについて理解することができるようにする。【知識及び技能】
- (2) 交通事故による傷害の防止について危険の予測やその回避方法を考え、表現することができるようにする。【思考力・判断力・表現力等】

【学習過程（2時間目／7時間扱い）】

段階	学習活動 (◇予想される生徒の反応等)	形態	指導上の留意点 (▲留意点 ◎支援)	☆評価規準 ※評価方法
導入5分	<ol style="list-style-type: none"> 1 自転車安全利用五則チェックテストを行う。 2 中学生に多い交通事故の特徴とその原因を予想する。 ◇自転車事故、一時不停止、スピードの出し過ぎなど。 	個	<ul style="list-style-type: none"> ▲教科書を閉じて行う。 ◎一齐に答え合わせを行う。 ◎グラフを提示する。 ◎見当がつかない生徒がいる場合、いくつかの原因を提示して選択させる。 ▲教科書を開かせる。 	
展開①17分	<ol style="list-style-type: none"> 3 交通事故の事例から事故の発生要因について整理する。 4 表1と事例を基に、交通事故の発生要因について整理する。 5 図3・4を基に自転車や自動車の特性を考える。 ◇体が守られているかいないか、タイヤの本数など。 ◇事例で下線を引いた所に人・環・車のどこに当てはまるか書く。 	個	<ul style="list-style-type: none"> ▲事例を読んで事故の発生要因と思う部分に下線を引くようにする。仲間の意見を聞き新たに見つけた部分は付け加える。 ◎自動車の特性についての動画を視聴し、内輪差や死角についてイメージを深めるようにする。 ▲事例での発生要因がどこに分類されるかを確認する。(人的・環境・車両) ◎人的要因と環境要因、車両要因が関わりあっていることを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆交通事故による傷害には人的要因や環境要因が関わっていることを理解することができたか。【知技】 ※ワークシート

展開②18分	展開③5分	まとめ5分
<ol style="list-style-type: none"> 6 図を見て、事故の危険を予測し、どのように回避すればよいかを話し合い、発表する。 ①班で1枚の図を選ぶ。 ②選んだ図について、潜む危険を予測し、どのような危険が箇条書きで書き出す。 ③②で予測した危険を回避するためにはどのような方法が最適か、文章でまとめる。 ④個人の危険回避のための行動の他にできることはないかを考える。(交通環境の整備) ⑤危険予測と回避方法を班内で発表する。 ⑥代表者が全体の前で発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ▲3種類の図を用意し、グループで課題とする1枚を選ぶようにする。 ▲左の②~③の活動は個人で行うように。 ◎目に見える危険(顕在危険)と状況や時間の経過によって現れる危険(潜在危険)にはどのようなものがあるか補助発問する。 ◎回避方法は文章でまとめるようにする。 ▲交通事故回避のためにできる環境整備の例を挙げる。(教図5) ◎個人でまとめた回避方法を発表し、自己になかった考えは付け加えるようにする。 ▲図2の危険行動の罰則について交通規則と照らし合わせてクイズ形式で行う。 ◎選択肢を準備する。 ▲自転車加害事故に触れる。 ▲学校周辺で事故が起こりやすい場所の写真を示す。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆交通事故による傷害の防止について危険の予測やその回避方法を考え、表現することができたか。【思判表】 ※ワークシート
	<ol style="list-style-type: none"> 7 自分の生活の中に潜んでいる危険について考える。 ①図2を見て個人の安全な行動について考える。危険行動をするとどのような罰則を受けるか。 ②身近な場所で事故が発生しやすい場所はないかを考えよう。 	
	<ol style="list-style-type: none"> 8 交通事故によるけがの発生についてまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ▲特に中学生における事故の特徴について振り返る。

▶ 提示資料など

【展開①表1】

事故が発生しやすい場所は○○○○○

【例】
一時不停止等
安全不確認
交差点安全進行義務違反
動静不注意

本人の不適切な行動
↓
人的要因

【展開①図3・4】

自転車の運転者の視点がわかる写真(運動者から車のサイドミラーごしに見える自転車の様子)などを示す

自動車の内輪差に関するイメージ図を示す

【展開②図1・2・3】

自転車で道路の右側を走行する写真などを示す

自転車で並走して進む写真などを示す

車の左側をすり抜けようとする写真などを示す

【展開②教図】

交通環境の整備

歩車分離されていない道路など
整備前

➔

歩車分離された道路など
整備後

準備物

●教科書, ワークシート

【ワークシート】

2年 組 番 名前

○○○○○ () に○○○を入れてみよう。

①○○○○ (1.) ○○○○

②○○○○ (2.) ○○○○

③○○○○ (3.) ○○○○

④○○○○ (4.) ○○○○

⑤○○○○ (5.) ○○○○

考えてみよう! 「中学生に多い事故はどんな事故かな?」

自転車の運転の危険性を考え、伝えよう

単元の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
傷害の防止について理解を深めることができるようにするとともに、応急手当の技能を身に付けることができるようにする。	傷害は、人的要因や環境要因などが関わって発生することを、数学的、科学的な知識及び技能を活用しながら考えることができるようにする。 ※第3学年理科の内容である力学的エネルギーの学習につなげ、本時の指導内容の深化を図る。	傷害の防止について、危険の予測やその回避の方法を考え、他者や社会に伝えようとすることができるようにする。

安全に関する視点

学校、家庭、地域社会において他者や社会の安全に貢献できる生徒の育成を目指す。これからの学校における安全教育には、主体的に安全文化を構築しようとする強い意気込みや意欲、行動力をもつ生徒の育成が必要であり、将来、地域社会で安全文化を守り続ける人材が、事件や事故を限りなく0（ゼロ）に近付けることに大きく貢献すると考える。

指導計画 【10時間+1時間【特別活動】】

時	学習内容	評価規準
1	傷害の発生と要因	傷害、健康に関する資料を見たり、これまでの生活を振り返ったりしながら学習活動に取り組んでいる。
2	交通事故の発生と要因	傷害の発生要因について理解したことを言ったり、書き出したりしている。交通事故の防止について、課題の解決に向けた話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組んでいる。
3 本時	交通事故の危険予測と回避	交通事故の防止について、既習内容や経験などから比較したり、関係を見付けたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。
4	交通事故防止	交通事故の防止について、危険の予測やその回避の方法を考え、意欲的に他者や社会に伝えようとしている。
5	犯罪被害の防止	犯罪被害の防止について、既習内容や経験などから比較したり、関係を見付けたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。
6	自然災害の一次災害と二次災害	自然災害の一次災害と二次災害について理解し、課題解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組んでいる。
7	自然災害による傷害の防止	自然災害について、その回避の方法を考え、意欲的に他者や社会に伝えようとしている。
8	応急手当の意義と方法	応急手当の必要性や方法について理解している。
9	心肺蘇生（実技）	心肺蘇生についての知識を身に付けるとともに、応急手当が必要な場面に遭遇した時にとるべき行動を選択することができる。
10	直接圧迫止血法 包帯法（実技）	止血法、包帯法についての知識を身に付けるとともに、応急手当が必要な場面に遭遇した時にとるべき行動を選択することができる。
関連	【特別活動】 交通安全啓発活動	交通事故から身を守り安全に行動するための必要な知識・技能を身に付ける。社会の一員として学習したことを積極的に伝える。

【特別活動交通安全啓発活動】の事例については、次の見開きで紹介。

本時の展開例

本時の目標

- 交通事故などによる傷害は、安全な行動、環境の改善によって防止できることについて理解することができるようにする。【知識及び技能】
- 交通事故による傷害の防止について危険の予測やその回避方法を考え、表現することができるようにする。【思考力・判断力・表現力等】

	学習活動・内容	支援・留意点 ☆評価
導入	<ul style="list-style-type: none"> ◆生徒が経験した道路歩行中に感じた自転車の危険について振り返る。 発問 「道路歩行中に感じた自転車の危険な運転を思い出しましょう。」 発問 「危険な運転のうち、交通事故の加害者になる可能性の高い場面を挙げましょう。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・危険な運転について個人で振り返りをさせてから、小集団で危険な場面を整理させる。 ・交通安全教材等を活用し、具体的な場面を提示する。 ・体験については、運動場又は屋内運動場等で行う。ラインを引き仮想道路上を走行する。
展開	<p>なぜ、自転車の「ながら運転」が危険なのだろうか、考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆スマートフォン「ながら運転」の体験 ◆体験によって気付いたことと危険性についての意見交換 発問 「「ながら運転」をした場合とそうでない場合の違いを挙げましょう。」 発問 「時速15kmで5秒間、「ながら運転」した場合に何m進むでしょうか。また、その間、どのような危険があるでしょうか。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・進行方向の左右に適切な物体を置いたり人を配置したりして、「ながら運転」をした場合としない場合の見え方を比較できるようにする。 ・距離の求め方を確認する。 ☆「ながら運転」中は、見えているつもりでも、実際は見えていないことを様々な例を挙げながら認識することができている。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ◆教師による講話 ・「ながら運転」時の速さと距離に触れながら危険性を伝える。 ・今後、学習するエネルギーに触れながら、運動する物体が自らに及ぼすエネルギーと他に与えるエネルギーの影響や危険性を伝える。 ・今後に行う課題解決に向けた具体的な取組への意欲をもてるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科等の学習と関連づけるようにする。 算数・数学の学びが活用されていることを意識するようにする。今後の理科の学習に関連させ、走る自転車もつ運動エネルギーの大きさについて触れ、その危険性を説明する。 ☆算数・数学等の教科の学習が活用されていることについて、教科の学習の大切さを述べている。（ワークシート） ・「ながら運転」による事故の新聞記事等を活用する。

【期待する生徒の反応】

「ながら運転以外にも、危険な自転車運転はあると思う。自分が事故に遭うだけでなく、事故を起こすかもしれない。法律があるから、警察に捕まるからではなく、自分や他の人の大切な命を守るため、私は危険な自転車運転をしないようにする。」

使用教材・準備物、留意事項など

〈関連する教科等の内容〉

- 小学校算数「速さ」「変化と関係（比例、反比例）」
- 小学校体育「交通事故の防止」
- 中学校数学「比例、反比例」「一元一次方程式」
- 中学校理科「運動とエネルギー」

- 中学校特別活動 学級活動「安全な生活態度や習慣の形成」
- 中学校美術「交通安全のポスターを作ろう」
- 中学校国語「交通安全に関わる標語を考えよう」

自転車の運転の危険性を校区の小学生に伝えよう

単元の目標

地域社会において他者や社会の安全に貢献できる生徒の育成を目指す。生徒は小学校算数、中学校保健体育など教科等での学びによる見方・考え方を十分に働かせ、あわせて、地域の安全文化の構築には、これまでの学びを地域等に発信しなければならないという使命をもって活動に取り組む。

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
中学校保健体育における傷害の防止に関する学習を基礎とした見方・考え方を働かせ、交通事故から身を守り安全な行動の仕方を身に付ける。	地域の交通安全上の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定をしたりできる。小学生に「ながら運転」の危険性や正しい交通安全行動の大切さを分かりやすく伝えることができる。	地域社会で生活する一員として、地域の交通安全を守り、安全文化を積極的に構築しようとする意欲を身に付ける。

指導計画 【4時間+保健体育 10時間】

時	学習内容	評価規準
1	警察署員から市内で起きている交通事故の特徴を聞く。特に「ながら運転」による事故状況について聞き問題点をまとめる。 (講師 警察署員)	警察署員から自動車の「ながら運転」による事故、歩行者の歩行中、自転車運転中の「ながら運転」による事故の実態を聞き、これまでの学習と関連付けながら、なぜ「ながら運転」が増えているのか、なぜ「ながら運転」をしてしまうのかなどの問題点を整理できる。
2	小学生に「ながら運転」の危険性を分かりやすく説明するための話し合いを行い説明の方法などを決定する。	傷害の発生要因について理解したことを言ったり、書き出したりしている。交通事故の防止について、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組んでいる。
3 本時	小学生に「ながら運転」の危険性を分かりやすく説明する。	小学生に「ながら運転」を説明する意図を理解すると共に、これまでの学習を分かりやすく説明するために、説明原稿を作ったり、説明補助材としての視聴覚教材やポスターなどを作成したりしている。
4	小学生の書いた感想文やアンケート回答から、これまでの取組の振り返りを行う。	集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせながら、課題解決に主体的、実践的に取り組んでいる。
関連	【保健体育 (10時間)】 交通事故の危険予測と回避	交通事故による傷害は、人的要因や環境要因などが関わって発生することを、数学的、科学的な知識及び技能を活用しながら考える。傷害の防止について、危険の予測やその回避の方法を考え、他者や社会に伝えようとする意欲や態度を身に付ける。

▶ 本時の展開例

本時の目標

保健体育科における傷害の防止に関する学習を基礎とした見方・考え方を働かせながら、小学生に「ながら運転」の危険性を分かりやすく説明する。

	学習活動・学習内容	支援・留意点 ☆評価
導入	<p>「ながら運転」の危険性を小学生に分かりやすく説明しよう 「ながら運転」撲滅宣言をしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆本時の課題について確認する。 ◆班ごとに、役割分担、説明手順を確認する。(説明者、説明補助者、機器操作担当、ポスター担当など) 	<ul style="list-style-type: none"> ・6班が6会場に分かれて説明を行う。 ・必要に応じて、説明会前に機材等の準備を行う。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ◆班ごとに小学生の各グループに出向き「ながら運転」の危険性などについての説明を行う。 ◆説明後には、小学生からの質問などに答える。 ◆全班が共通して以下の質問を小学生に行う。小学生は挙手をして答える。 <ul style="list-style-type: none"> ①時速15kmの自転車は、2秒間で何m進むか。(小学校算数「速さ」) ②「ながら運転」は法律で禁じられているか。(加害者にもなる可能性について) 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校算数「速さ」、小学校体育「交通事故の防止」と関連させた説明になるようにする。 ・保健体育で体験的に学んだ事項をスライドやポスター等を使って分かりやすく説明する。 ・自転車に限らず「ながら運転」や「ながら行動」の事故の実態にも触れる。 ・児童は小グループで話し合い、答えを考える。 ・①の質問は、各グループで噛み砕いて答えを導く。 ☆「ながら運転」の危険性を分かりやすく説明している。小学生が、「ながら運転」がなぜ危険なのかを理解している。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ◆「ながら運転」撲滅宣言 ◆児童の感想や本時での学び等の発表 ◆教師による講話 ◆アンケートの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生と中学生の代表生徒(児童)が全体の前で「ながら運転」をしないこと、「ながら運転」を社会から撲滅するために努力することを宣言する。 ☆児童が撲滅宣言で具体的な取組を述べている。

【期待する生徒の反応】

「地域の活動などでも『ながら運転』の危険性を発信していきたい」
 「『ながら運転』は危険なので絶対にやらない。」
 「小学生に上手に説明することができてよかった。」
 「小学生だけではなく、家族などにも交通安全に関して学んだことを伝えていきたい。これからは交通安全に注意していきたい。」

使用教材・準備物、留意事項など

〈特別活動 学級活動の内容〉

●エ「安全な生活態度や習慣の形成」(3)イ「社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成」

〈関連する教科等の内容〉

●小学校体育「交通事故の防止」
●小学校算数「速さ」「変化と関係(比例、反比例)」

●中学校数学「比例、反比例」「一元一次方程式」
●中学校理科 第1分野「運動とエネルギー」
●中学校保健体育 保健分野「傷害の防止」
●中学校美術「交通安全のポスターを作ろう」
●中学校国語「交通安全に関わる標語を考えよう」

「交通安全地域マップ」から交通安全上の問題点を見つけよう

単元の目標

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
小学校第5学年及び第6学年、保健における交通事故などが原因となるけがの防止に関する学習や学級活動における地域安全マップを通した学習を基礎とした見方・考え方を働かせ、交通事故を回避するための安全な行動の仕方を身に付ける。また、他者と協働する様々な活動の必要性を理解する。	地域の交通安全上の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定をしたりできるようにする。	地域社会で生活する一員として、地域の交通安全を守り、安全文化を積極的に構築しようとする意欲を身に付ける。

安全に関する視点

地域社会の危険を積極的に見だし(抽出)、その危険がどのように起きるのか、また、なぜ危険なのかを深く考え(分析)、問題点を明らかにするとともに、問題を解決する具体的な方法などを考える活動を行うことができる生徒の育成を目指す。

さらに、学習したことを地域等に積極的に発信しようとする態度など安全文化を発信する生徒を育成する。

単元の指導計画 【全5時間】

時	学習内容	評価規準
1	警察署員から市内及び本校通学区域で起きている交通事故の実態や特徴を聞き、危険箇所の実地踏査の計画(場所・点検項目)を立てる。	地域安全マップの作成に関する学習を振り返り、地域安全マップの目的や意義について確認することができる。 警察署員から市内及び通学地域の交通事情を聞き、環境と事故の特徴を関連付けて考えることができる。 実地踏査の目的を理解し、踏査の目的を認識するとともに点検項目など計画を立てることができる。
2	実地踏査を行い、危険箇所に関する資料を作成する。(地域ごとの班を編成し実施)	実地踏査を行い計画に従って交通安全確保の視点で危険箇所に関する問題点を整理することができる。また、効果的な資料とするための写真撮影、スケッチ等ができる。
3	実地踏査で収集した写真等の資料を用い地図上に危険箇所を示し危険である理由を整理する。	実地踏査を行った場所の地図上に分かりやすく交通安全上の危険箇所を示すことができる。また、なぜ危険なのか、どのような危険性があるのかを示すとともに説明することができる。 分かりやすい交通安全地域マップを作成できる。
4 本時	交通安全地域マップを活用し、危険を回避するための行動についてまとめる。(講師 警察署員)	危険箇所の環境や特徴だけでなく、気候や気象の条件などを考慮したうえで、危険を予測し回避する行動をとることができる。
5	交通安全地域マップを活用して、地域の交通安全上の危険や危険回避について保護者や地域の方等に発信する。	交通安全上の危険や危険回避についてどのようにすれば効果的な発信ができるか考えることができる。 効果的な発信方法を選択し行動を起こすことができる。

▶ 本時の展開例

本時の目標

小学校第5学年及び第6学年、保健における交通事故などが原因となるけがの防止に関する学習や小学校の学級活動における地域安全マップを通した学習、前時における交通安全地域マップの学習を基礎とした見方・考え方を働かせながら、歩行者として危険を回避する方法について考えられるようにする。

	学習活動・学習内容	支援・留意点 ☆評価
導入	<ul style="list-style-type: none"> ◆前時に学習した地域の交通安全を守る上で危険な箇所をマップ上に示す活動。 ・マップ上に示した箇所が危険である理由についての振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各班のマップで確認を行う。 ・理由については、前時にまとめたものを活用する。
展開	<p style="text-align: center;">歩行者はどのような行動をすれば危険を回避できるか考えよう</p> <p>展開1 【運転者の立場から考えてみよう】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆運転者にとって、「危険だな」と思う歩行者の行動を考える。 ①自転車運転者の立場から →歩行者として危険を回避するには ②自動車運転者の立場から (HONDAのKYTを活用) →歩行者として危険を回避するには ◆「危険」の定義をまとめる。 <p>展開2 【危険回避の方法を考えよう】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆交通安全地域マップに示した場所について、定義をもとに危険性を確認し、歩行者が危険を回避するための方法をまとめる。 ◆各班に警察署員から講評。 	<p>予想される生徒の反応</p> <p>①突然飛び出してくる/話に夢中で自転車に気づいていない/道幅いっぱい広がっている。</p> <p>②車に気づいていない/突然飛び出してくる。</p> <p>歩行者の危険についての定義をまとめる。 運転者とアイコンタクトできない・しにくい場所</p> <p>☆危険箇所の環境や特徴だけでなく、気候や気象の条件などを考慮しながら、危険を回避する行動についてまとめている。</p>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ◆実践に向けての動機付け 	<ul style="list-style-type: none"> ・学んだことを基に、地域の交通安全に貢献することについての意識を高められるようにする。

【期待する生徒の反応】

「運転者の立場から歩行者を見て、自分たちの通学路の危険を見直すことができた。歩行者として運転者からどう見られているか意識しながら、交通安全に気をつけて過ごしたい。」

〈特別活動 学級活動の内容〉

- (2) エ「安全な生活態度や習慣の形成」(3) イ「社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成」

地域の自然災害

本時の目標 地域に起こりやすい自然災害を調べることを通して、自分たちの住む大地の変化の特徴を理解するとともに、自然を多面的・総合的に捉え、自然と人間との関わり方について科学的に判断しようとする。

▶ 本時の位置付け

	理科【第2分野】	関連教科
1年	(2)大地の成り立ちと変化 自然の恵みと火山災害・地震災害	社会【地理的分野】 C 日本の様々な地域 (4) 地域の在り方
2年	(4)気象とその変化 自然の恵みと気象災害	技術・家庭【家庭分野】 (6) 住居の機能と安全な住まい方
3年	本時 (7)自然と人間 地域の自然災害	等

表内の英数字は中学校学習指導要領上の内容区分等を示す

▶ 本時の展開例

過程(時間)	活動内容	教師の支援・指導上の留意点
導入 10分	学区の一部が大雨による洪水(内水氾濫)等で、水に浸かった様子の写真を見る。 ・昔から水が溜まりやすいと聞いたことがある。なぜだろう？ 古地図と現在の衛星写真等とを比べる。 ・ここは昔は河口だったみたいだ。 ・どうやって陸地になったのだろう？土地が隆起したのだろうか。 ・様々な調査結果から自然災害は予測されているんだ。	学区内など、なるべく生徒にとって身近な地域の災害の様子を写真や映像で見せ、災害を身近なものとして捉えられるようにする。 古地図と現在とを見比べることで、時間軸で土地の変化を捉えられるようにする。 ポーリング調査結果など、人間社会の時間軸を超えた根拠にも触れる。
展開 33分	自治体の作成するハザードマップや衛星写真を基にして調べる。 ・●●地区は津波の浸水が想定されている。海拔0mだからだろう。 ・○○地区には液状化や高潮の浸水が想定されている。埋め立てられた土地が広がっているからだろう。	私たちの住む「まち」には、どのような災害が起こりやすいのだろうか。 市域が広い場合→学区、学区が狭い場合→市域など、対象とする範囲を工夫する。 被害が想定される理由を土地の成り立ちから推測させる。

過程(時間)	活動内容	教師の支援・指導上の留意点
	<ul style="list-style-type: none"> △△地区は土砂災害警戒区域になっている。地図をよく見ると谷から広がる扇状地状になっている。 海岸沿いは段丘になっている。隆起が何回も繰り返されたのだろう。 <p>話し合い、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 隆起して河口部が平野になったから人が住めるようになったともいえそう。 	意見交換したり、科学的な根拠に基づいて議論したりして、自分の考えをより妥当なものにする。
まとめ 7分	<p>災害(被害)を最小限に食い止めるにはどのようにしたらよいか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 土地の成り立ちやリスクを理解して住む。 既に住んでいる人には危険を伝え、対策を取るよう促す。 	自然現象は止められないが、災害(被害)は人間の生活の仕方によって減らすことができることへの気付きを促す。

▶ 評価

古地図や衛星写真、ハザードマップ等をもとに、地域に起こりやすい災害と自然現象とを時間的・空間的に結び付けて考察できたか。

使用教材・準備物、留意事項 など

図書館等にある古地図、衛星写真、自治体が作成するハザードマップ など

地域調査の手法

単元の目標

- (1) 防災をテーマとした地域調査を通して、野外調査や文献調査を行う際の視点や方法を理解するとともに、地形図などの読図や地図の作成などの地理的技能を身に付ける。(知識及び理解)
- (2) 地域調査において、地域の特徴に着目して、適切な主題や調査、まとめになるように、調査の手法やその結果を多面的、多角的に考察し、表現することができる。(思考力・判断力・表現力等)

▶ 指導計画・関連する教科等

(1) 指導計画 (社会科：9時間)

- ① 地域にはどんな課題があるだろうか (1時間)
- ② 地域では、どんな自然災害が起こる可能性があるのだろうか (1時間)
- ③ 地域調査の計画を立てよう (1時間)
- ④ 実際に、地域で調査をしよう (3時間)
- ⑤ 調べて分かったことを地図にまとめよう (2時間)
- ⑥ 地域調査で分かったことを発表しよう (1時間) **本時**

(2) 関連する教科等とのつながり

理科の第2分野の「(2) 大地の成り立ちと変化」「(4) 気象とその変化」「(7) 自然と人間ア (ア) ○地域の自然災害」、保健体育科の保健分野の「(3) 傷害の防止」等の学習と関連させる。

▶ 本時の展開例 (1時間配当)

過程	活動内容	教師の支援・指導上の留意点
導入	本時の学習の課題を確認する。 本時の進め方を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> これまでの調査で分かったことを発表し、地域の方々も交えながら意見交換を行い、地域の防災上の課題を明らかにするという本時の学習課題と本時の進め方を説明する。 地域の方々に調査で協力いただいたり、参加いただいたりした趣旨についても説明する。
展開	調査結果をグループごとに発表する。 グループ1 [沿岸部エリア] グループ2 [山間部エリア] グループ3 [市街地エリア] グループ4 [河川周辺のエリア] 発表を踏まえての意見交換	<ul style="list-style-type: none"> 調査結果の発表にあたっては、地図を活用して表現し、必要に応じグラフや文章でまとめたものを使って、分かりやすく説明することを意識できるようにする。 説明の際には、地図やグラフなどから読み取れることと、読み取った事実から自分が解釈したことを分けて説明する。 意見交換では、地域で予測される自然災害の種類やその要因、人々の生活実態や昼夜間の人口構成の問題、避難場所の位置や避難経路の安全性等について、調査結果の根拠をもとに話し合わせ、地域の防災上の課題を明らかにしていく。

過程	活動内容	教師の支援・指導上の留意点
終末	地域の方や専門家からのコメント まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の発表や意見交換を踏まえて、今後の課題解決に向けての学習への関心意欲を高め、解決に向けてのヒントになるようなコメントをお願いする。 これまでの調査活動や本時の各グループの発表、意見交換を踏まえ、分かったことや今後地域で解決しなければならない課題などをまとめる。

▶ 評価

- (1) 地域調査を通して、調査活動を行う際の視点や方法を理解するとともに、地形図などの読図や地図の作成などの地理的な技能を身に付けることができたか。[調査計画書、調査の様子、調査結果をまとめた地図やグラフ]
- (2) 地域調査において、地域の特徴に着目して、適切な主題や調査、まとめになるように、調査の手法やその結果を多面的、多角的に考察し、表現することができたか。[調査結果をまとめた地図やグラフ、発表や意見交換の様子、学習のまとめの記述内容]

【※安全に関する視点】

- (1) 地域で起こりうる災害とその危険性や災害発生時の避難経路や避難場所について理解することができたか。[調査の様子、調査結果をまとめた地図やグラフ]
- (2) 地域の防災に関心を持ち、地域の防災活動に進んで参加・協力しようとする態度が身に付いたか。[発表や意見交換の様子、学習のまとめの記述内容]

☑ 使用教材・準備物、留意事項など

- (1) 地域の地形図 (国土地理院発行)
- (2) 地域のハザードマップ (市町村発行)
- (3) 防災教育副読本 (都道府県教育委員会発行)
- (4) 「災害から命を守るために～防災教育教材 (中学生用)～」 (文部科学省 平成21年)

学年 1年

地域に住む人たちの意識を一つに

単元の目標

地域の人々の防災に対する意識や取組の現状を知り、災害弱者の命を守るためにできる活動を考えることを通して、地域の安全・安心に関わる人々の思いや願いに気づき、地域の一員として共に助け合い、進んで行動しようとする態度を育成する。

単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①地域の防災に対する意識の現状や課題について理解し、高齢者などの災害弱者の命を守ることの意義について気付いている。(知識) ②防災の活動が地域で生きていくために深く関わっていることに気付いている。(理解) ③収集した情報を多面的に見て、考えを具体化するなど、探究の過程に応じた技能を身に付けている。(技能)	①地域の人々の防災への意識から、取組むべき対象や課題を見出し、解決の方法・手順を考え、見通しをもって計画を立てている。(課題設定) ②地域の人々や地域の防災への取組を情報収集する際に、目的に応じて情報収集の手段を選択し、必要な情報を収集している。(情報収集) ③地域の人々や地域の取組をレベルアップするために必要な情報から特徴を見つけ、視点を定めて整理し、分析している。(整理・分析) ④地域の人々や地域の取組をレベルアップするために調べたり考えたりしたことをまとめ、相手や目的、意図に応じて分かりやすく表現している。(まとめ・表現)	①探究的、協働的な活動を通して、進んで地域の課題解決に取り組もうとしている。(主体性・協働性) ②自他のよさを生かしながら、異なる意見や他者の考えを受け入れ行動しようとしている。(自己理解・他者理解)

単元の指導構想図

単元名 地域に住む人たちの意識を一つに～ Bottomup プロジェクト～ 全 50 時間

小単元② 全 20 時間

小単元① 地域の課題と向き合おう。(30 時間)

小単元② 意識の差をなくすためにはどうしたらよいだろう。(20 時間)

◆ 学習の流れ ◆

きっかけ

交流センターからの要望があり、利用者と合同避難訓練を企画し、実施した。合同避難訓練は1回ではだめだ。2回目の訓練を成功させたい。

◆ 意識の流れ ◆

- ・お年寄りや避難訓練をして、中学生が頼りにされていることが嬉しかったね。
- ・参加された方はみんな元気で歩ける方たちばかりだったね。
- ・歩くのが大変な方たちにも訓練に参加してもらって、災害時にはあきらめずに逃げようためにはどうしたらよいのかな？

第1次 交流センターの利用者の誰もが避難訓練に参加できるにはどうしたらよいだろう。

【課題の設定】(4時間)

- ①合同避難訓練の振り返りをする。
- ②1回目の合同避難訓練に参加した人、参加しなかった人への聞き取りをする。
- ③お年寄りの意識や避難の際の不安や困難を知り、課題を設定する。

◆1回目の避難訓練に参加していなかった人にも参加してもらい、避難への意識を高めてほしいという最終ゴールを意識させる。

第2次 1回目の避難訓練に参加していなかった人に参加してもらうためには、どんな改善したらよいだろう。

【情報の収集】(5時間)

- ①地域の避難訓練の状況や取組について調査する。

第3次 対策に必要なものを整理し、具体策を検討しよう。

【整理・分析】(4時間)

- 本時
- ①情報を基にして、具体策を考える。
 - ②対策を検討、整理する。

◆自分達の力や地域の力を借りて実現可能かどうかを検討し、整理する。

第4次 第2回合同避難訓練を成功させよう。

【まとめ・表現】(7時間)

- ①避難訓練の実施計画を立てる。
- ②作成した計画案を職員の方に提案し、意見をもらう。利用者の方の意見も聞いてみる。
- ③修正を行い、準備をする。
- ④第2回合同避難訓練を実施する。
- ⑤訓練を振り返り、今後につながるように記録を残す。

◆交流センターで交流を行いながら、利用者の立場にたった実施計画になっているか検討する。2回目の訓練の参加者に変化があったかどうかで、取組の成果を考えるようにする。

小単元②でつきたい力

- 地区の人々の防災への意識を知り、災害対策をとっていくことの重要性やその取組を理解する。【知】
- 防災への意識や現状から課題を見出し、設定し、その解決に向けて見通しを持って取り組む。【思】
- 探究的な学習を通して、進んで地域の課題の解決に取り組もうとする態度。【主】

- ・地域の人に助かってほしいね。
- ・参加していなかった方はどんな理由や不安があるのかな？
- ・“あったか”には普段はどのような方が来ているのかな？
- ・不安への対策をしたら、避難訓練にも参加してくれるのかな？
- ・みんなが参加できるための準備ややり方を考えて、2回目の避難訓練を実施しよう。
- ・2学期の施設での交流も生かしたいね。

- ・地域のお年寄りの方はどんな状況なのかな？
- ・地域の避難訓練には参加しているのかな？
- ・お年寄りがたくさん避難訓練に参加している地区はどんな工夫や働きかけをしているのかな？

- ・移動や体力的に不安がある方は訓練に参加することが大変だ。どんな手助けをしたらいいのかな？
- ・訓練のときだけではなく、日ごろから避難を意識してもらうためにはどうしたらよいのかな？
- ・意識に働きかけることや、設備などいろいろな面から考えていこう。
- ・自分たちでできそうなことや地域の方と協力する必要があることを整理しよう。

- ・自分たちの案で訓練に参加してくれるかどうか、1回目に参加していなかった方の意見を聞いてみたいね。
- ・安心して訓練に参加してもらえたのかな？
- ・自分たちが一緒に訓練することで、移動や体力的に不安がある方でも逃げてみようという気持ちになってくれたのかな？
- ・みんなの命を守るためには、やるべきことがもっとあるね。
- ・これからも地域の人の意識を変えていく取組を考えていこう。

▶ 本時の展開例

本時の目標

収集した情報をもとに地域の防災意識の向上に向けた対策を考え、課題解決に向かう見通しを持てるようにする。

本時の評価規準

調査したことをもとに、課題解決に向けた具体策を考え、整理している。(思考力・判断力・表現力等)

準備物

ボード、マジック、模造紙

過程	学習活動・内容	意識の流れ	●指導上の支援・留意点 【観点】評価の視点等
導入	<ul style="list-style-type: none"> ●単元目標を確認する。 ・ゴールの確認をする。 ・現在までの取組を確認する。 ●本時のめあてを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・合同避難訓練を計画するだけでは、課題解決にならないことが調査から分かったね。 ・ほんとうに災害が起こったとき、逃げようとしてほしいよね。 	
<p>地域の人たち全員が“逃げよう”という気持ちになるための方法やアイデアを体験や聞き取りをもとに考えよう。</p>			
展開	<ul style="list-style-type: none"> ●対策を考えて、意見を出し合う。 ・班で案を話し合う。 ・全体で検討し、整理する。 ・キーワードを出す。 ・キーワードを時系列で整理する。 ・具体案をキーワードのところに貼っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの調査の結果から、逃げない理由が分かったね。 ・逃げたいけど体力に自信がない人や、そもそもあきらめている人には、どんな手立てをしたらよいだろう。 ・出てきた案を整理していこう。 ・いろいろなことができそうだね。 ・どんなことからやっていったら目標に近づいていけるかも考えてみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ●対策の対象者を確認するようにする。 ●民生委員の方の思いや願いも想起するようにする。 ●KJ法を意識するようにする。 ●気持ちや意識を目標に向けて高めていくというイメージを持つようにする。 <p>調査したことをもとに、課題解決に向けた具体策を考え、整理している。 【観察・ボード】</p>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ●第2回合同避難訓練をする価値について気付く。 ●振り返りを書く。 ●次時の取組を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・合同避難訓練をすることは、地域の人たちの意識を変えることにつながるだろうか。 ・交流したことで、1回目は不参加だった方が、今度は参加しようと言ってくれていた。 ・交流していくことで、意識を変えていくことができたね。 ・第2回合同避難訓練の計画をしっかり立てて成功させよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ●いま行っている取組や方法が目標に向けての取組にも当てはまることに気付けるようにする。 ●2回目の合同避難訓練の目的意識や意欲が高まるように、訓練をやることの価値を再確認するようにする。